

シンポジウム

病院にふたたび
花を

2016/3/6 **日** 14:00-16:30

静岡市女性会館
会場 / アイセル 21

主催 / 静岡市立静岡病院 医療がつなぐ「ひと」と「地域」の交流センター

「病院と花」を考える

—シンポジウム開催にあたって—

わたしたちの病院では、10年ほど前から、ホームページ上で、お見舞いに花を持ってきていただくことを、止めてくださいとお願いしてきました。

“院内感染防止のため、生花・鉢植えの持ち込みはご遠慮くださいますようお願いいたします。花や土には多数の細菌が付着しています。免疫力の低下した患者様の感染防止にご協力ください。”というように説明してきました。

生花や鉢植え植物が、病院内で感染を起こす原因になるのかどうか、ということが論じられはじめて、20～30年経過します。この間、徐々に、わたしたちの病院と同じように、“花の持ち込み禁止”を掲げる病院が、増加してきた、と報じられています。

一方、感染症の専門的立場からは、そのような一律の禁止に科学的根拠があるのかどうか疑問が呈され、日本感染症学会のQ&Aでも、「免疫不全がなければ花瓶の水や鉢植え植物は感染源とはなりません。移植患者や重症エイズ患者の病棟以外であれば制限は不要です。」とされています。しかし、同時に、下記のような予防策を、慎重な配慮として記載しています。

- ①花や植物は患者に直接接しないスタッフが取り扱う。
- ②このような対応が困難ならば花を取り扱うスタッフは手袋を装着する。
- ③植物を扱った後は手を洗う。
- ④花瓶の水は隔日に交換して、水は患者身辺の環境から離れた流し台に捨てる。
- ⑤使用後の花瓶は洗浄する。

感染の問題のほかにも、花粉アレルギー、匂い、花がきれい、花瓶の落下・破損、水こぼれによる電子機器の故障、床すべり、ベッド周りの混雑、そして、花の世話をだれがするのか—病院スタッフがするとすれば、その分の仕事はだれが分担するのかなど、医学的な懸念、個人の嗜好、物理的なリスク、業務負荷と論点は多岐にわたります。

今回のシンポジウムでは、「病院と花」の問題について、とくに、感染を論点として、基調講演をお願いした岩田健太郎先生はじめ、いろいろな分野で、花に関心を寄せ、実践してこられた方々からお話をうかがいます。そして、わたしたち医療者自身がこの問題について、市民のみなさんとともに考えるきっかけにしたい、と考えています。

病気を治療する、癒すための特別な場所—病院という施設空間において、合理的な根拠に基づいて、個人の希望や思いを尊重すること、また一方で複数の人が共有する場としての病院のあり方にも配慮すること、そのためにはどうすればよいだろうか、なかなかむずかしい問題ですが、このあたりに関心を持って、本日のシンポジウムに積極的にご参加いただければ幸いです。(平成28年3月6日)

静岡市立静岡病院 医療がつなぐ「ひと」と「地域」の交流センター
宮下 正

岩田 健太郎 氏

病院に花を持ってきてよい理由



神戸大学大学院医学研究科 微生物感染症学講座 感染治療学分野 教授
神戸大学都市安全研究センター 感染症リスク・コミュニケーション研究分野 教授

講師略歴

1997年島根医科大学（現・島根大学）卒業。
沖縄県立中部病院研修医、コロンビア大学セントクルーズ・ルーズベルト病院内科研修医を経て、アルバートアインシュタイン大学ベスイスラエル・メディカルセンター感染症フェローとなる。
2003年に中国へ渡り北京インターナショナルSOSクリニックで勤務。
2004年に帰国、亀田総合病院（千葉県）で感染内科部長、同総合診療・感染症科部長歴任。
2008年より現職。
主な著書に、『医療につける薬：内田樹・鷺田清一に聞く』、『サルバルサン戦記』、近刊に『極論で語る感染症内科』、翻訳本で『本質のHIV』などがある。

memo



病院にふたたび花を

基調講演

岩田 健太郎氏

病院に花を持ってきてよい理由



神戸大学大学院医学研究科
微生物感染症学講座 感染治療学
分野 教授
神戸大学都市安全研究センター
感染症リスク・コミュニケーション
研究分野 教授

感染症学の専門家。またリスク
マネジメントなど、社会的に幅広い
分野で活躍。

プログラム

第1部 基調講演

第2部 パネルディスカッション

■ ディスカッションのポイント

- ・生理的リラックス効果・生体調整効果
- ・はげまし・癒し効果
- ・社会的なつながりを維持・確認する効果
- ・社会的なつながりを創造する効果

- ・生花や鉢植え植物が、病院内で感染を起こす原因になるのか
- ・花粉アレルギー ・匂い ・花がきれい
- ・花瓶の落下・破損による危険
- ・水こぼれによる電子機器の故障
- ・水こぼれによる床すべり
- ・ベッド周りの混雑による危険
- ・花の世話をだれがするのか

花によるメンタルケアの有用性

塚本 隆男氏



市立御前崎総合病院
地域連携室

広大な病院屋上花壇による
癒し・憩いの空間づくりを
自ら率先して実践。

鈴木 明芽氏

問題提起、マスコミの立場から



静岡新聞社
社会部記者

ジャーナリストの立場から、
花と病院に関する問題を
取材、記事に取り上げた。

増田 博氏

花をこよなく愛す者



静岡デザイン専門学校 講師
フラワー装飾士

和洋のフラワーデザインに
精通、生花店の経営のかた
わら、後進の教育に携わる。

井上 暢子氏

静岡市立静岡病院における花に関する意識調査



静岡市立静岡病院
看護部

病院職員や一般来院の方等
を対象に、花と病院に関する
意識調査を行った。

宋 チョロン氏

花きをもたらす生理的リラックス効果



千葉大学
環境健康フィールド科学センター

花き等の自然由来の刺激が
もたらす生理的リラックス
効果と個人差に関する研究
に従事。

コーディネーター

宮下 正 静岡市立静岡病院 医療がつなく「ひと」と「地域」の交流センター

岩井 一也 静岡市立静岡病院 感染管理室



鈴木 明芽

問題提起、マスコミの立場から

「病院にお花を持って行ってはいけないんだって。知ってた？」。
 何気ない会話をきっかけに取材を進めると、近年、全国で、感染症対策として生花の持ち込みを禁止する病院が増えていることが分かりました。県内も例外ではありません。
 花瓶など水回りに存在する「緑膿菌」により、免疫が低下している人は肺炎などを起こす恐れがあります。毎日水を換えるなど清潔に保つことができればいいのですが、少ない医療スタッフでは手が回らないという理由でした。
 一方で、花を活用する病院もありました。患者は花を見て治療に前向きになり、訪れる人は明るい雰囲気の院内に安心できるという効果があるようです。
 どちらの考えが正しいとは言えません。ただ、多くの人が不安を抱えて訪れる病院を心癒やされる空間にするためにはどんな工夫が必要か、考える機会になればと思います。

井上 暢子

静岡市立静岡病院における花に関する意識調査

静岡病院では院内感染対策上、生花の持ち込みを制限している。私たちはこの10年間、花がないことは疑問に思わずに過ごしてきた。しかしこの無機質な病院環境が、患者さんのよりよく生きようとする力をひきだしているのか疑問に感じ始めていた。そのような中で、病院への花の持ち込みは、雰囲気を明るくし、癒しをもたらす効果があり、ふたたび病院に取り入れるべきだという意見がでていた。
 そこで、病院職員や一般来院者等を対象に「花が好きか」「静岡病院では生花の持ち込みができないことを知っているか」「お見舞いに花を持っていきたいか」「花以外に病院内の癒しには何かがあるか」等、花に関する意識調査を行った。アンケート調査にご協力いただいた1082名の集計結果を報告する。

宋 チョロン

花きもたらす生理的リラックス効果

花きもたらす快適性増進効果については経験的に知られているが、EBM (Evidence-Based Medicine) に基づいた科学的データの蓄積は少ないのが現状である。一方、最近の計測機器の進歩は急速であり、それに伴った生理データの提出が進みつつある。
 花きもたらす生理的リラックス効果を自律神経活動と脳前頭前野活動を指標として評価したところ、1) バラ、ドラセナ等の視覚刺激によって、①副交感神経活動が高まり、リラックス状態になること、②交感神経活動が抑制され、ストレス状態が軽減されること、2) バラの嗅覚刺激によって、前頭前野活動が鎮静化することがわかった。さらに、3) バラ生花の視覚刺激によって、交感神経活動が高い場合は低下し、低い場合は上昇するという生理的調整効果が認められた。
 結論として、花きは、①生理的リラックス効果をもたらすこと、ならびに ②生体調整効果も持つ可能性があることが実験的に明らかとなった。

増田 博

花をこよなく愛す者

1. 自己紹介～フローリストとして47年間
2. 静岡デザイン専門学校の簡単な紹介
3. 人類と花の関わり
4. 花のある無しによる居住空間の印象の違い
5. 意識調査の報告 (10代以降ご年配までの250名程度より)
 - ・病院への生花持ち込み禁止を知っていたか、その理由を知っているか
 - ・好きな花と花に抱くイメージについて
 - ・花をもらった時の気持ち
 - ・お見舞いには何を渡すのか、その理由
 - ・お見舞いをいただくとしたら何が良いか、またその理由
6. 県内の花事情、輸入している花事情
7. お見舞いにお勧めのフラワーアレンジメント

塚本 隆男

花によるメンタルケアの有用性

《目的》 人は花を見ると和んだり気分が良くなったと言われるが、実際はどうか？
 《方法1》 簡単な5段階フェイススケールを作り、花畑をご覧になった方に、花畑を見る前の心境と見た後の心境についてアンケート調査を行った。
 《方法2》 好きな花畑、花による印象について質問を行った。
 《結果》 フェイススケールでは、およそ2年間で1,445名の協力が得られた。
 1. 花畑を見る前の心境が、患者さんの方が患者さん以外に比べやや暗い。
 2. 患者さんの方が、花を見ると患者さん以外に比べ明るくなる。
 3. 印象評価では、ひまわりからはポジティブな印象が、菜の花とコスモスからは美的な印象を受けている。
 4. 黄色い花の色からは明るい印象がある。
 《考察》 花(植物)を見てきれいと思うことで心の回復に繋がり、病院などの医療機関において花はメンタルケアの有用性があると考えられる。

お知らせ

独法化特別企画 静岡市民「からだ」の学校 (第5回)
 一少子高齢化、激動の時代を生きる智慧をもとめて一

2016年4月24日(日) 14時～16時15分
 グランシップ11階会議ホール「風」

静岡市立静岡病院は、本年4月1日より地方独立行政法人静岡市立静岡病院となります。これを記念して第5回 静岡市民「からだ」の学校を開催いたします。
 今後の日本は、少子・超高齢・人口減少社会を迎え、生産年齢人口の減少に伴い、医療・介護の人的資源の制約も大きな問題となっていきます。今回は、特別講演として、人口構造の変容と医療政策の第一人者である政策研究大学院大学教授(医療政策コース) 島崎謙治先生をお迎えして、これからの医療・地域政策、保険制度のあり方等についてわかりやすくお話しいただきます。なお、法人発足にあたり、地方独立行政法人 静岡市立静岡病院の概要と今後の計画、ならびに病院設置者静岡市の立場から本市の医療行政などについても、ご説明申し上げる予定です。



静岡市立静岡病院

〒420-8630

静岡市葵区追手町 10 番 93 号

TEL 054-253-3125 FAX 054-252-0010

HP <http://www.shizuokahospital.jp/>